

VI-100

多目的情報ネットワークシステムの構築

－気象情報全国配信システムへの適用－

三井建設技術研究所 正会員 渡辺 眞由美
同上 正会員 大津 慎一
同上 正会員 高田 知典

1. はじめに

近年、移動体通信やデジタル通信網などを含む情報伝達経路の急速な発達に伴い、各方面でリアルタイムな情報提供システムが導入されてきている。しかしこれらのシステムの多くは、特別な設備が必要であったり、使用機器が制限されたりといったように汎用性および経済性に乏しいものである。また1システムにおいて得られる情報量も限られており、利用者が必要とする情報を得るのに複数のシステムの情報を必要とするような事態が発生する可能性もある。これは良い意味では、利用者側に情報の選択権があるということであるが、使用機器や情報の形態が統一されていない現状においては煩わしさが目立つだけである。

そこで筆者らはこれら情報提供システムの現状に着目し、利用者側の負担の軽減とシステム及び情報の汎用化に主眼をおいた多目的情報ネットワークを開発した。本稿は、この多目的情報ネットワークと気象情報全国配信システムへの適用について報告する。

2. 多目的情報ネットワークの構築

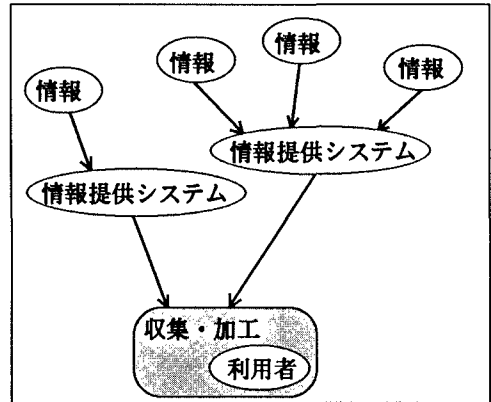
現状における情報提供システムの多くは、1システムで得られる情報量は限られている。利用者は必要な情報を必要な量だけ得るためには、複数のシステムより情報を収集する必要がある。これらの情報は、独立した情報であるため利用するには加工が必要となる（図－1）。これは人的にも経済的にも望ましいものとはいえない。

では、この人が行っている部分をシステムで代行できないであろうか。現在、人が行っている部分は、

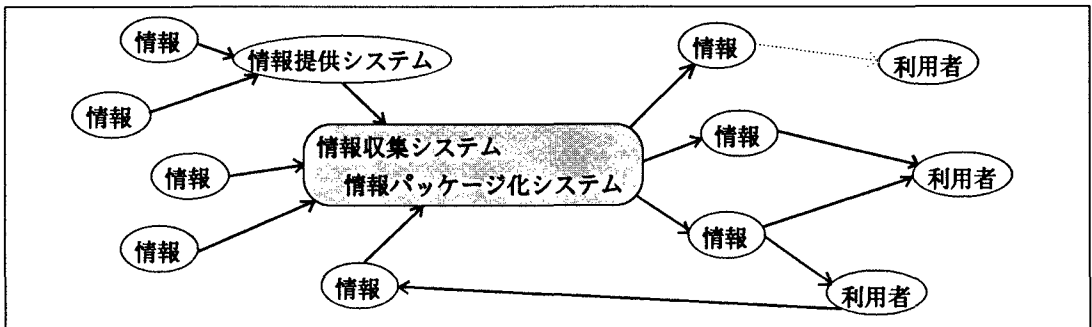
- 1) 必要な情報を収集する
- 2) 収集した情報を関連付け加工する

である。これは一元化とパッケージ化という機能により

システム上定義することができる。この2つの機能を有するシステムを中心にネットワークを構築することにより、情報を一元的に管理し、かつ利用者は加工された情報を容易に得ることができる。この際、情報の加工様式は利用者の使用用途により異なるため、収集した情報から複数のパッケージ化された情報を生成することが必要である。また利用者側に対する情報伝達経路を多様化することにより使用機器制限の軽減、および利用者側からの情報のフィードバックも可能となる（図－2）。



図－1 現状の情報の流れ



図－2 多目的情報ネットワークの流れ

